二〇二五年度 教育功績等優秀教員表彰式

八月四日、昨年度の教育活動において優秀な功績を収めた教員に対する表彰式が行われた。

受彰者の選考では「授業改善のための学生アンケート」での学生評価や、教員業務・活動報告書における教育改善の進捗状況、シラバスなどを基準に評価し、今年は十七人の教員が選ばれた。

表彰式では、選考委員長を務めた大西晴樹学長が受彰者に賞状を贈呈。祝辞では、優れた教育と研究成果の相関や学生との円滑なコミュニケーションの重要性に触れ、「質の高い教育を受けることで、学生の成長の機会もより多くなる」と強調。今後も互いにコミュニケーションを取りながら研鑽を重ねていくことの大切さを伝え、受彰者を称えた。

受彰者

〈文学部〉
■英文学科
教授 バックレイ フィリップ
■総合人文学科
准教授 藤野 雄大
■歴史学科
准教授 吉植 庄栄
■教育学科
教授 清多 英羽

〈経済学部〉
■経済学科
准教授 望月 理生

〈経営学部〉
■経営学科
准教授 李 楊

〈法学部〉
■法律学科
教授 遠藤 隆幸

〈工学部〉
■機械知能工学科
教授 矢口 博之
■電気電子工学科
教授 佐々木義卓
■環境建設工学科
准教授 崎山 俊雄
■情報基盤工学科
教授 淡野 照義

〈地域総合学部〉
■地域コミュニティ学科
准教授 庄子 元
■政策デザイン学科
教授 熊沢 由美

〈情報学部〉
■データサイエンス学科
教授 伊藤 則之

〈人間科学部〉
■心理行動科学科
准教授 吉田 雄大

〈国際学部〉
■国際教養学科
教授 古川 弘子

〈教養教育センター〉
助教 ドンネレ アリーセ



【前列左から】古川教授、李准教授、庄子准教授、大西学長、岩谷副学長（点検・評価担当）、ドンネレ助教、佐々木教授
【後列左から】清多教授、藤野准教授、矢口教授、吉田准教授、崎山准教授、望月准教授、吉植准教授

二〇二六年度 特待生・優等生表彰式

七月二日、土樋キャンパスで二〇二六年度特待生・優等生表彰式が行われた。

本学では、建学の精神を理解し学業成績が特に優秀な学生を特待生または優等生として表彰し、奨学金を授与している。今年度は全学部で特待生九十一名、優等生二百八十二名が表彰された。

式では大西晴樹学長から各学部の代表者に表彰状と記念品が手渡された。大西学長は学生たちに対し、昨年度に真剣に授業に取り組んだ成果が今日の結果につながったものと評価し、「この奨学金は『LIFE LIGHT LOVE』というスクールモットーを掲げている東北学院大学から贈られるものであるということを忘れないでほしい。四年生の皆さんはこれから社会に出てからも活躍していただき、在学生の皆さんは来年も特待生・優等生に輝いてもらいたいと思う」と激励し祝辞を述べた。



災害支援へ募金活動
大学・高校生が共同で呼びかけ
二日間で百万円の募金が集まる

八月十八日と十九日の二日間、藤崎本館前で七月に発生した熊本地震と八月に起きた千葉豪雨災害への支援募金活動が行われ、二日間で百万百六十五円の募金が集まった。

当初は熊本地震への支援募金として企画・準備を進めていたが、八月十三日に発生した千葉県での豪雨被害を受け、この支援募金も行った。

今回の活動には、東北学院大学の学生ならびに東北学院高等学校、東北学院榴ケ岡高等学校の生徒、総勢五十四名が参加し、支援を呼びかけた。参加した学生や生徒は、被災地の一日も早い復旧・復興を願うとともに、支援募金にご協力いただいた方々の思いに触れ、活動の意義を改めて学ぶ貴重な機会となった。榴ケ岡高等学校二年次の菊地修さん（TG選抜コース）は、被災地のニュースを見て自分にできることを考えたといい、「今回の活動が少しでも被災地の助けになればうれしい」と思いを語った。

預かった募金は、日本赤十字社を通じて全額、熊本地震および千葉豪雨災害の被災地へ寄付された。



青山 北海
総合定期戦開催

第77回 対青山学院大学総合定期戦
第72回 対北海学園大学総合定期戦

第77回 対青山学院大学 総合定期戦

第七十七回を迎える対青山学院大学総合定期戦が五月三十日と三十一日の二日間、青山学院大学を会場に開催された。

定期戦では、大会期間前および期間中の種目として、スキー、硬式テニス、フェンシング、射撃・ライフル射撃、ヨット、洋弓・アーチェリー、ゴルフ、準硬式野球、ラグビーが行われた。アウェイのプレッシャーがかかる中でも選手たちは全力を尽くし、フェンシングで勝利を収めたものの、その他の種目は惜しくも僅差で破れ、悔しい結果に終わった。

総合得点は本学が二点、青山学院大学が十八点で、青山学院大学が総合優勝を果たし、本学の通算成績は二十八勝四十七敗となった。

第72回 対北海学園大学 総合定期戦

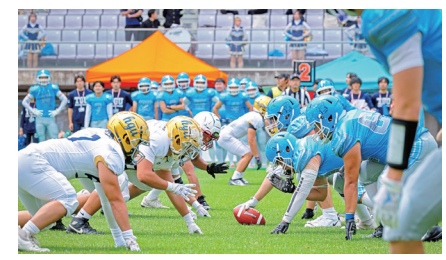
第七十二回を迎える対北海学園大学総合定期戦が六月十九日から二十一日までの三日間、本学を会場に開催された。

初日には、両校の応援団、吹奏楽部、チアリーディングチームが仙台市内の錦町公園からサンモール一番町商店街までを練り歩くパレードを実施。開会式前には、同団体による華やかな演奏やパフォーマンスで選手たちにエールを送った。

また、大会期間前の六月十四日には、「第二十六回仙台グリーンボウル」（宮城県アメリカンフットボール協会主管）で、東北学院創立百四十周年記念事業としてアメリカンフットボールの試合をユアテックスタジアム仙台で開催。定期戦の幕開けにふさわしい白熱した一戦となった。

定期戦は二十一種目の競技が行われ、本学は十七種目で勝利を収めた。総合得点は本学が三十四点、北海学園大学が八点となり、本学が見事総合優勝を飾った。これにより、通算成績は七十二勝〇敗と、連勝記録を更新した。





体育会サッカー部

64年ぶり天皇杯本戦に出場
―プロチーム相手にピッチで躍動―

東北学院大学体育会サッカー部は、「天皇杯 JFA 第106回全日本サッカー選手権大会」に宮城県代表として1962年以来、実に64年ぶり８回目の出場を果たしました。

8月19日開催の1回戦は、地元のユアテックスタジアム仙台で行われ、プロチームのJ3「ザスパ群馬」（群馬県代表）と対戦。試合は前半に先制を許し、後半に1点を返して追い上げたものの、直後に追加点を奪われ1-3（前半0-1、後半1-2）で惜敗しました。

格上のＪリーグチームを相手に終始チャレンジャーとして堂々と立ち向かい、強敵相手にピッチ上で見せた躍動と最後まで走り抜いた選手の姿は、駆けつけたファンや大学関係者に深い感動を与えました。全国の舞台での貴重な経験と悔しさを糧に、チームはさらなる高みを目指して次の戦いへ挑みます。

さらなる高みを目指して



試合結果

天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会　1回戦
2026年8月19日19:00　ユアテックスタジアム仙台

東北学院大学（宮城県代表） 1（0－1 / 1－2）3 ザスパ群馬（群馬県代表）